

国際平和のための対話イベント「UN75 in Hiroshima」の開催結果について

令和2年8月19日
平和推進プロジェクト・チーム

1 趣旨

2020年は、被爆75年であるとともに、国際連合（国連）創設75年にあたる年であり、国連はこの年を記念して、世界の人々に対し、未来に関する対話を促している。

そこで、8月6日の中満国連事務次長の来広の機会にあわせ、核軍縮に向けた国際的な機運醸成に向け、公募によって選ばれた参加者と議論を行う国際平和のための対話イベント「UN75 in Hiroshima」を開催した。

※【UN75】

- ・国連創設75周年を記念して、国連が2020年1月に発足させた取組。
- ・UN75で生まれた見解やアイデアは、グテーレス国連事務総長が2020年9月21日の国連創設75周年記念ハイレベル・イベントで、世界のリーダーと国連のシニアレベルの幹部に提示することになっている。

2 開催日時 令和2年8月6日（木）13:30～15:30

3 開催場所 エソール広島（（公財）広島県男女共同参画財団）
（広島市中区大手町一丁目2-1 おりづるタワー10階）

4 主催 広島県

5 協力 外務省，（公財）広島平和文化センター，国際連合広報センター（UNIC）

6 後援 国際連合訓練調査研究所（UNITAR）

7 次第

(1) 開会式

ア ビデオメッセージ アントニオ・グテーレス 国連事務総長

イ 外務省メッセージ（オンライン） 大野祥 外務省軍備管理軍縮課長

ウ 来賓挨拶 小泉崇（公財）広島平和文化センター理事長

(2) 対話イベント

参加者 中満泉 国連事務次長・軍縮担当上級代表

湯崎英彦 広島県知事

秋山信将 一橋大学教授（モデレーター）

参加者 12名（うち2名はオンライン参加） ※応募者数34名

8 視聴者 150名（オンライン放映）

9 グテーレス国連事務総長のメッセージ

(要約)

- ・1945年以来、国連の最優先事項の一つが核兵器廃絶である。
- ・国連の創設者は、世界の限りある資源を兵器ではなく、開発に使うべきだと考えた。
- ・皆さんの願いを実現するため、このような場（「UN75 in Hiroshima」）で、我々は、皆さんから、未来への希望と不安、どのように、ネットワーク化され、包括的で効率的な多国間協調主義を築いていくべきか聞いていきたい。
- ・健全な地球上のすべての人々に平和、繁栄、尊厳、及び機会を創出するため、一緒に取り組みましょう。



グテーレス国連事務総長
からのビデオメッセージ

10 対話の内容

「SDGsの実現のために軍縮はどう貢献できるか」をテーマに参加者がそれぞれ提言を行った後、対話を行った。

(概要)

参加者：

- ・SDGsの実現のために、軍事費削減に繋がる科学的な根拠に基づいた代替案の提案を市民社会の側から行っていくべき。
- ・我々は、ソーシャルメディアで繋がり、プロジェクトを共有し、各々の声を強化すべきだ。
- ・被爆者の証言は、国境を越えて、人々の心に触れ、動かす力を持っている。証言の力、人と人との交流が、紛争への最大の抑止力となる。

中満国連事務次長：

- ・デジタルテクノロジー、地域紛争やテロ、気候変動、不平等・格差、COVID-19等の公衆衛生、移民・難民、ジェンダーが重要な課題である。多くの課題は、軍縮に密接に関連している。共通の課題に対応するためには共通の行動が必要。
- ・COVID-19による経済状況が悪い時期を捉えて、軍縮を進めていく流れをつくる必要がある。冷戦の終結も経済問題がきっかけとなった。
- ・多様性は、政策判断の質を高める。政策決定の過程に多様性を取り入れることは、みんなのためであるということを広めて欲しい。

知事：

- ・世界を変えるためには、若者が、自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力を持つことが必要。
- ・若者はデジタルテクノロジーを活用するスキルがある。国連は、若者にボランティアとして、平和教育や意見交換・政策立案のためのプラットフォームを作り、運営してもらおうことができると思う。
- ・専門家だけが軍縮問題を議論するのではなく、多様な意見を取り入れることが重要。
- ・行動し続けることが重要。良い考えがあっても、行動しなければ世界を変えることはできない。



「UN75 in Hiroshima」の様子

11 今後の予定

報告書を作成し、国連本部に提出する。